

# 千刈狸の呟き

## ～ 秋田の県民性 ～

蒼 狸

世の中には、  
支配する人、支配される人、  
強い人、弱い人  
豊かな人、豊でない人  
考える人、考えない人等がいる。  
人はみなどちらかに分類されることとなる。

さて自分がはたして経済的に豊か否か、  
豊かさ = 収入 - 支出 = 残高がいくらあるか。  
豊かさは自分がどのくらいはぶりがいいかではなく現在の残高がその実態である。未来の収入予測はあくまで予想であり、確定しているのは現在の残高である。自分は豊なつもりであっても、実は必ずしも自分の主観的判断は正しくない。例えば、社長は借金をして事業を行う人で、社員は貯金してがんばる人だから、社長より社員の方に残高があるかもしれない。

そこで「医療経営分析のいろはのい」を勉強した。

まず経営の主要3要素とは  
総点数 (1ヶ月間)  
総件数 (1ヶ月間の実患者数)  
総日数 (1ヶ月間の延べ患者数) である。

次に経営の主要3指標には  
1人1日当たり点数  
1件当たり点数  
1件当たり日数(月平均来院回数)があるようだ。

総点数  
= 総日数 × 1人1日当たり点数  
= 総件数 × 1件当たり点数  
= 総件数 × 1人1日当たり点数 × 1件当たり日数  
と計算される。

これらの数字はレセプトから引き出す、データは銀行やコンサルにとっても興味深いものであろう。自分と同じシステムの他の医療機関のデータをネットから探し出すことが出来る。

内科診療所の事例では、例えば (550000点 500件 1000日) (550点 1050点 1.9日) の施設があった。

それぞれの数値が3要素と3指標の値である。これらの数値を自身のデータと比較して自分の実力を把握する。新患の数は、リピーターの数は、平均点はどうか、自身の特徴がみえる。標準的仕事をしていれば標準的データになる。気になるデータである。支出についても、規模に応じたデータがネット内にある。

他方、前述の豊かさの値に関して、自分で調和がとれていると感じるのであれば、あえて他者との比較をいろいろ考える必要は無い。すなわち自己満足が出来ればOK。これは絶対的豊かさとも言えよう。比較する事によるストレスとは無縁になる。比較データをよくするために仕事をしてるのではない。患者さんの健康を願い診療に専念することが我われの使命だ。

さて、ここまで記してみると秋田の県民性について考えが移ってきた。われわれ県民は、あまり努力せず、頑張らず、満足している人が多いと思われる。生活コストが安いので県民所得が低くとも豊かさは調和するのであろう。年収900万の東京のサラリーマンとの比較そのものが秋田県人にとってはナンセンスなのだ。秋田県人はアクセク働かず、もしかして日本で最も悠々と暮らしているのかもしれない。あまり他県の人々の暮らしが気になるのではない。言い換えると最も強い自尊心を有する県民かもしれない。「絶対的豊かさを尺度として生活する県民である」と言える。今後もそのスタイルでいいのかも、ただしいわゆる偉人の輩出が少ないとすれば、このへんに原因があるのかもしれない。

まとめ  
データも大切  
メンタルも考え方しだい  
秋田の県民は豊かに暮らしている